

### アジア競技大会を終え

中国で開催された第16回アジア競技大会（広州・11月12～27日）のカヌー女子スプリント競技で銀メダル（2人乗り）、銅メダル（4人乗り）を獲得した大村朱澄さん（本町田出身・早稲田大学3年）が11月30日、結果報告のため佐藤公敏町長を訪問。約1時間の歓談を楽しんだ。

平成15年、国民体育大会カヌー競技が旧本川根町で開催されるのを機に、町ではカヌーの普及と振興が急ピッチで進められていた。若手育成の一環として、有志のカヌークラブ「本川根カヌーレーシングチーム」が結成され、朱澄さんは小学2年のときに入会。毎日のように練習に明け暮れたという。

中学、高校時代は、常に国内トップクラスの成績を上げ、ジュニア日本代表として各国の大会に出場。「世界で戦う」経験を積んだ。

高校卒業後は早稲田大学に進学。2年のときからシニア日本代表に選出され、ジュニア時代同様、世界を転戦した。昨年からナダで開催された世界選手権にも日本代表として出場を果たしている。本町が誇るトップアス



リートだ。

「今回のアジア競技大会では、納得のいくレース運びができずくやしい思いをしました。でもくやしいばかりではなく、収穫と思える部分もありました。今後は来年8月に開催される世界選手権に向け、さらに練習に励んでいきます。世界選手権はその名の通り、世界中から強豪が集まる大会です。決勝に残るというハードルも、アジア大会よりずっと高い。これから課題とする部分を徹底的に鍛え直し、万全の体制で臨みたいと思っています」と、朱澄さんは強い意気込みを語った。

### 世界への挑戦は続く

佐藤町長は「小さいころから

熱心に練習する姿を見かけていました。世界をまたにかけて活躍する朱澄さんを、町を挙げて応援しています。朱澄さんが頑張る姿が、町の人たちにも元気を与えています。これからも体には気を付けながら頑張ってください」とエールを送った。

その後、大村さんは川根高校を訪問し、カヌー部員たちと久々の対面を楽しんだ。

「進学先でもカヌー競技を続けていきたいと思っています」と、卒業を控えた3年生部員が話すと、朱澄さんは「それはすごい。自分にできることがあつたらぜひ相談して」とうれしそうに答えていた。

約1時間ほど部員との歓談を楽しんだ後、「これから3年生は進路に向けて、1、2年生はインターハイで川根高校が活躍できるように精いっぱい頑張つて」とメッセージを送った。在学中にお世話になった先生たちとも対面。ひとしきり昔話に花を咲かせ、母校を後にした。

世界を見渡せば、40歳を超えて第一線で活躍する選手もざらにいるというカヌー競技。朱澄さんはまだ21歳。前途は洋々だ。「世界」を相手に、挑戦する日々は続く。

## 小学2年で飛び込んだカヌー競技の世界 今、日本を代表するトップアスリートに アジア競技大会で、胸に輝く銀メダル・銅メダル

# あすみ 大村朱澄さん(早稲田大3年)

アジア競技大会（広州）カヌー競技メダリスト

左ページ小/アジア競技大会の様子や現地で出会った人のことをカメラの画像を見せながら伝える朱澄さん。カヌー部員も興味津々 右ページ大/歓談後、2人でガッツポーズ。朱澄さんの好意で佐藤町長の首にメダルがかけられた。